



最近、木っ端を使ったカトラリーづくりにはまっているそう。一つひとつ木目も形も違う木材。個性をいかしたカトラリーは作品展やポップアップストアで人気だとか



「福井は蕎麦処だから、蕎麦猪口を作ってみよう」という発想で生まれたポップな色づかいの木の器は、今では小島さんの代表作のひとつ

和泉生まれの
カラフルで
個性的な器たち。

いずみで暮らせて

約230世帯が住む和泉地区。
その内訳をみると、約3割が
インターン、Uターンという驚きの数です。
都会から和泉に移住を決めた2組に
和泉を選んだ理由をおうかがいしました。



大好きな木とともに暮らせる
”自分らしい場所”をみつめました。

使い慣れたカンナで木地挽きをする、木工作家の小島尚さん。彼女が作るカラフルな色漆の器は、ライフスタイルを楽しむ女性の間で人気の作品です。

大学時代に学んだ木工をもう一度学ぶために、東京から石川県加賀市にある石川県挽物轆轤技術研修所に入所。研修終了を控え、活動拠点を探していたところ、知人から和泉に木工所があることを聞き、人も温かく、木材も豊かに揃うこの地に移住することを決意したそうです。

数年前までは、役所からの依頼もあり、木工教室を行いながら自身の作品作りも平行。

「和泉は静かでものづくりに没頭するのにとてもいい環境です。

ここだから、自然とアイデアも生まれる。でも何よりも一番よかったことは、”自分らしい場所”が見つかったことですね」と笑顔で話します。

現在は創作活動に励む毎日を通ぐすかたわら、東京・大阪・名古屋といった都市で、作品展やポップアップストアを開くなど、活動の場を広げています。

木工作家
小島 尚 さん (移住歴15年)

東京都出身。武蔵野美術大学を卒業後、塗料メーカーに就職。いくつかの職を経て、石川県挽物轆轤技術研修所に入所。女性目線から生まれるカラフルな器や小物がSNSで話題に。